

ブラジルにおけるBSE 確認症例について

1. 症例の概要

- ・月齢：死亡時約 13 歳（2010 年 12 月死亡）
- ・産地：ブラジル・パラナ州
- ・品種：肉用繁殖雌牛
- ・給与していた飼料：ブラジル農牧供給省（MAPA）は、疫学調査で収集された情報から、当該牛は牧草飼料のみで飼育され、補足飼料は給餌されていなかったと説明。

2. 発生確認に至るまでの経時的な経緯

- ・2010 年 12 月 18 日：獣医当局（Official Veterinary Services : OVS）は、パラナ州で牛 148 頭を飼育する畜主から、肢硬直で横臥の牛がいる旨の通知を受けた。
- ・2010 年 12 月 19 日：当該牛死亡（埋却）。獣医当局は死亡原因特定のため、当該牛からサンプル採取。（当該地域は、草食動物の狂犬病汚染地域であるので、国の検査計画に従って狂犬病の鑑別診断のために行われた。）
狂犬病検査は陰性であり、かつ当該牛は成牛であったため、BSE サーベイランス制度に則り、当該牛サンプルは BSE 検査に回された。
- ・2011 年 4 月 11 日：獣医当局の認定検査機関による BSE 病理組織検査によって BSE 陰性の結果。
- ・2012 年 6 月 15 日：国立研究所での免疫組織化学検査において BSE 陽性と診断される。
※ブラジルは、国立研究所での検査が遅れたのは、OIE コード 11.5.22 条に定める「Fallen stock」グループで、「9 歳超」年齢グループに属しており、BSE リスクが低いため、検体の診断優先度は低いとみなされたため病理組織検査から免疫組織化学検査までに予想以上の遅れが生じたとしている。
- ・2012 年 12 月 6 日：英国 Weybridge にある OIE のレファレンスラボの英国動物衛生獣医研究機関(AHVLA) にサンプルを送付し、当該機関より免疫組織化学検査により BSE 陽性であると確認される。
- ・2012 年 12 月 14 日：英国の Weybridge にある OIE レファレンスラボにおいて、ウエスタンプロット法を実施。報告書には、「検体の決定的な分類ができるほどプロットの質はよくなかった。また、検体の質が低く、その固定の経緯が不詳であるため、分類は『INCOCLUSIVE』となった。しかし、当該検体は BSE の L 型または C 型というよりは、むしろ H 型の特徴をいくつか有しているように見られる。」と記述されている。